

項目	観点	教科書名	新 技術・家庭 家庭分野 くらしを創造する (6・教団)	技術・家庭 家庭分野 生活の土台 自立と共生 (9・開隆堂)
1 学習指導要領の教科の目標を達成するために取り扱う内容の選択について	○よりよい生活の実現に向けて、生活を工夫し創造する資質・能力を育成するため、どのような配慮がされているか。	<p>新編 新しい技術・家庭 家庭分野 自立と共生を目指して (2・東書)</p> <p><b>&lt;知識・技能の習得&gt;</b>          ・目標と学習課題が明確化しており、身に付けるべき知識・技能がわかりやすくなっている。          ・題材ごとに「キーワード」が記載されており、知識・技能の定着のポイントがわかる。          ・小学校で学習したことがわかりやすく記載されているので、学習内容を振り返りつつ、新たな知識や技能を習得できる。          ・各ページの下に「せいかつメモ」があり、さらに詳しい知識や技能の習得につながる。          ・実習の衛生と安全では、衛生面の配慮についての視覚的理解ができる。          ・日常食の調理では、調理例が豊富でわかりやすく、発展的な内容を展開することができる。</p> <p><b>&lt;思考力・判断力・表現力等の育成&gt;</b>          ・各題材ごとに「学習を深めよう」の項目で、身近な生活をテーマとした課題から自分の考えをまとめることができ、思考力・判断力・表現力の育成につながる。          ・「まとめよう」の項目では、学習した内容をわかりやすくまとめ、表現力につながるよう工夫されている。</p> <p><b>&lt;学びに向かう力・人間性等&gt;</b>          ・「生活の課題と実践」では、課題解決学習の手順や参考例が詳細に示され、既習事項を生活の中で実践できる具体例があり、活用しやすいとともに、様々なまとめ方や発表例があるのがよい。          ・「調べてみよう」「考えてみよう」の項目では、学習の中で疑問に思ったことや、興味をもったことに自ら進んで取り組めるような工夫がされている。          ・「生活に生かそう」の項目では、学習したことを自らの生活で実践して、さらに生活をよりよくしていこうとする態度の育成につながる工夫がされている。</p> <p><b>&lt;その他&gt;</b>          ・関連分野の他教科の教科書資料も直接見ることができ、カリキュラムマネジメントに生かせるようになっている。</p>	<p>新 技術・家庭 家庭分野 くらしを創造する (6・教団)</p> <p><b>&lt;知識・技能の習得&gt;</b>          ・「めあて」や「キーワード」を明示し、知識・技能の定着ポイントを押さえている。          ・学習の始めにある「見つめてみよう」の項目で、疑問に思ったこと、これまでの経験、やってみたいことなどを考えることができ、学習意欲の向上につながる。          ・包丁の使い方は、切り方の例がわかりやすく表示されているため、理解しやすい。          ・食品成分表が色分けされていて、見やすいため、知識理解につながりやすい。          ・「資料」や「発展」の項目では、さらに詳しい知識や技能を知ることができ、発展的な内容を展開することができる。</p> <p><b>&lt;思考力・判断力・表現力等の育成&gt;</b>          ・各題材ごとに、振り返りの自己評価と記述式の「私の学び」の欄を設け、自分の言葉で表現できるよう工夫されている。          ・章末のまとめ「学習のふり返し」では、「考えてみよう」の項目で、日常生活の具体的な場面を例に挙げた問題が提示されており、自分の考えをまとめ、表現する工夫がされている。          ・題材ごとの「学びを生かそう」では、記録レポートの例が記載されており、課題設定からの一連の流れが視覚的にわかりやすい。</p> <p><b>&lt;学びに向かう力・人間性等&gt;</b>          ・「調べてみよう」「考えてみよう」「やってみよう」の項目では、自ら考え、わからないことを調べ、実際の生活で実践してみようという課題解決につながる工夫がされている。          ・章末のまとめ「学習のふり返し」では、「自分の言葉でまとめよう」の項目で、これまでの学習をふり返し、学んでよかったこと、もっとやってみたいこと、生活にどのように生かしていきたいかを考え、まとめることができる。</p>	<p>技術・家庭 家庭分野 生活の土台 自立と共生 (9・開隆堂)</p> <p><b>&lt;知識・技能の習得&gt;</b>          ・学習の目標を明確化し、その後身近な生活の中で起こりうる問題を課題設定している。          ・写真が多く画質もきれいなため、学習意欲の向上や視覚的理解の促進につながる。          ・扱いやすい実習や実習例が多く記載されており、わかりやすい図解などで知識・技能の定着につながる。          ・題材ごとに、「発展」のページがあり、基礎的・基本的な知識・技能を学んだ後にさらに発展的な内容を扱えるようになっている。          ・「参考」や「豆知識」が多く掲載されており、さらに詳しい知識や技能の習得につながる。          ・他教科とのリンクが記載されているので、関連付けて学習することができる。          ・日常食の調理では、電子レンジや加工食品を活用した調理例や、災害時の調理などについても記載され、発展的な課題を扱うことができる。</p> <p><b>&lt;思考力・判断力・表現力等の育成&gt;</b>          ・各題材ごとの学習のまとめでは、自分の考えをまとめる問題が記載されている。          ・「考えてみよう」の項目では、具体的な場面を設定して考えられるような課題となっている。          ・他教科とリンクさせて、多様な視点から考えられる場面が多く設定されている。</p> <p><b>&lt;学びに向かう力・人間性等&gt;</b>          ・各題材ごとの学習のまとめでは、実生活で実践したいことや、もっと知りたい、深く考えてみたいと思うことをまとめることができる。          ・「生活の実践と課題」では、様々な情報収集の仕方や整理・分析の仕方、まとめ方の例を示し、自分に合った方法で実践しやすくなっている。</p>
2 内容の程度及び取扱いについて	○生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、主体的・対話的で深い学びを実現するためにどのような工夫が見られるか。	<p><b>&lt;生活の営みに係る見方・考え方&gt;</b>          ・各内容の終末は、持続可能な生活を目指す学習で統一され、主体的・対話的で深い学びに取り組める工夫が見られる。          ・「プロに聞く」という項目があり、それぞれの専門家の仕事内容を知ることができ、キャリア教育にも関連させている。          ・キャラクター「ミカッタ」のセリフは見方・考え方を示唆する内容になっており、生徒が見方・考え方を働かせて思考し、深い学びが実現できるように工夫されている。</p> <p><b>&lt;主体的・対話的で深い学び&gt;</b>          ・「生活の課題と実践」では、各内容ごとに豊富な実践例が示されており、実生活で実践したいという意欲につながる。          ・各内容のまとめ「生活に生かそう」の項目では、できるようになったことだけでなく、できなかったこと（改善しようとしたこと）を考えることができ、生活を工夫し改善し創造しようとする力の育成につながる。          ・生活の課題と実践の資料では、思考ツールの例をまとめており、思考ツールを活用した主体的・対話的で深い学びを通して、問題解決能力を高めることができるよう工夫されている。</p>	<p><b>&lt;生活の営みに係る見方・考え方&gt;</b>          ・題材の最初に自立度チェックがあり、自分の生活を改めて振り返り、生活をさらによくしていこうとするきっかけになる。          ・各章の最後には「センパイに聞こう」の項目があり、それぞれの専門家の仕事内容を知ることができ、キャリア教育にも関連させている。          ・学習の導入「見つめる」では、写真やコマ漫画場面を通じて、生徒が身近な生活から見方・考え方の視点を通して気付きを得られるよう工夫されている。</p> <p><b>&lt;主体的・対話的で深い学び&gt;</b>          ・「話し合ってみよう」の項目では、話し合うポイントを明確化することで、課題をつかみやすくなっている。          ・題材の最後には「学びを生かそう」の項目があり、学習を振り返って、「まだ十分に理解できていないと感じたテーマ」「さらに学んでみたいテーマ」について考え、より深い学びにつなげられるような工夫がされている。          ・課題解決学習に取り組む際、身に付けた知識・技能にフィードバックできる課題設定のヒントが示されている。</p>	<p><b>&lt;生活の営みに係る見方・考え方&gt;</b>          ・各題材でSDGsについて大きく取り上げ、身近な生活でも実践しやすい例をとりあげている。          ・「先輩からのエール」では、それぞれの専門家からのアドバイスを記載し、キャリア教育にも関連させている。          ・ガイドランスで具体的に示され、教科書全体に貫かれており、一連の学習過程の中で、生活の営みに関わる見方・考え方を働かせることのできる構成になっている。</p> <p><b>&lt;主体的・対話的で深い学び&gt;</b>          ・ガイドランスの部分で「主体的」「対話的」「深い学び」について家庭分野での学び方と身に付けさせたい力について明記されている。          ・「生活の課題と実践」では、各題材ごとに「やってみたい」「もっと知りたい」「深く考えてみたい」ことについてまとめ、より深い学びにつなげられるような工夫がされている。          ・生徒同士や家族・身近な人たちとの会話なども通して考えを明確にするなど、生徒自らの考えを広げて深められるようになっている。</p>
3 内容の配列・分量	○題材の構成や配列には、どのような特徴があるか。	<p><b>&lt;配列&gt;</b>          指導計画に合わせている          B 衣食住の生活          C 消費生活・環境          A 家族・家庭生活          ※A・B・Cを1・2・3・4・5・6編と表記          最後に「生活の課題と実践」の順で配列  <b>&lt;版・ページ&gt;</b>          ・291ページ構成 AB版          ・全体的に淡い色調  <b>&lt;題材の構成&gt;</b>          ・各題材（編）の最初のページに学習内容がまとめられ、見通しを持って学習を進められるようになっている。          ・各題材ごとにSDGsを位置づけ、内容を関連付けて学ぼうになっている。          ・各題材（編）の最初のページに小学校家庭科で学んだ項目が記載されている。家庭科の他題材や、他教科と関連する内容については、リンクのマークをつけて表示。          ・単元の学習課題について、〈考えてみよう〉〈調べてみよう〉〈やってみよう〉〈話し合ってみよう〉で具体的な活動例が記載されている。          ・単元末ごとに〈まとめよう〉又は〈生活に生かそう〉があり、単元を振り返り、まとめや生活の中での活用を考える構成になっている。          ・各題材の最後に、学習の振り返りとして〈学習のまとめ〉として確認問題が記載されている。          ・複数の実習例（制作例）のほかに、参考例が表記されている。</p>	<p><b>&lt;配列&gt;</b>          学習指導要領に合わせている          A 家族・家庭生活          B 衣食住の生活          C 消費生活・環境          ※A・B・Cを10章（2章・6章・2章）に分けている          最後に「生活の課題と実践」が配列  <b>&lt;版・ページ&gt;</b>          ・275ページ構成 AB版より縦が長く横幅が狭い変形AB版          ・色彩が濃い  <b>&lt;題材の構成&gt;</b>          ・〈導入〉〈やってみよう〉〈学びを生かそう〉〈章末のまとめ〉で構成されている。          ・いくつかの章ごとに〈学びを生かそう〉を掲載。学習したことをもとに自分の課題を設定、計画、実践してレポートにまとめる内容が掲載されている。          ・家庭科の他題材や、他教科と関連する内容について、リンクのマークをつけて表示している。          ・ガイドランスなどで使える実習（調理・被服・保育訪問）の注意点コンテンツがある。          ・チャイルドラインや国民生活センターなど実生活内でそのまま使えるサイトの掲載がある。          ・消費者庁や警察庁、内閣府など国に関するサイトに多い。（厚生労働省のサイトは移行されているものが多く再度調べなおす必要がある。）          ・振り返りシートが各分野にデジタルデータベースでもついている。          ・敵立作成計算ソフトは食品群別摂取量の過不足など計算しやすくわかりやすい。          ・調理実習動画わかりやすい。          ・調理・被服実習動画は左利き用はない。          ・動画や写真など古いものがある。          ・データベースは動画よりもWebサイトの掲載が多い。          ・住分野での伝統的な住まいのパノラマは実際には行けないところを見ることができ、          ・A家族家庭生活の中での親からのメッセージはなかなか聞けない親の思いを聞ける。</p>	<p><b>&lt;配列&gt;</b>          学習指導要領に合わせている          A 家族・家庭生活          B 衣食住の生活          C 消費生活・環境          ※Bを食・衣・住の3つに分けて、全体で5つの構成          最後に「生活の課題と実践」の順で配列  <b>&lt;版・ページ&gt;</b>          ・312ページ構成 AB版          ・全体的に淡い色調  <b>&lt;題材の構成&gt;</b>          ・各題材ごとにSDGsを位置づけ、内容を関連付けて学ぼうようになっている。          ・単元の学習課題について〈やってみよう〉〈考えてみよう〉〈調べてみよう〉〈話し合ってみよう〉の表記で具体的な課題が記載されている          ・小学校家庭科や他教科と関連する内容について、各ページに表示。          ・各題材の最後に、学習の振り返りとして〈学習のまとめ〉として確認問題が記載されている。          ・実習例、制作例のみ掲載</p>
4 表記・体裁・資料	○用語や写真、動画・音声やアニメーション等のコンテンツなどの使用上の便宜については、どのような工夫が見られるか。	<p>文字はユニバーサルデザインフォント。          ・簡潔な文章表記。          ・表紙、本文とも全ての色覚特性に配慮した色を使用。          ・多様な生徒への対応として、中学校以降で学習する常用漢字には全てふり仮名が付されている。          ・押さえない語句は太ゴシックで目立つように表記          ・必要な情報と関連する情報が一緒に掲載されている場面が多い。          ・実習例は左から右に流れる横の流れで統一  <b>&lt;デジタルコンテンツについて&gt;</b>          ・動画・音声やアニメーション等に関するコンテンツはほぼ全ページにQRコードが記載されている。          ・デジタルコンテンツは、分野ごとに分かれていて選択しやすく、色覚特性によって明暗の色彩を選択できる。（ページ数も表示）          ・〈小学校・他教科〉をキーワードとして表記。関連するデジタルコンテンツも多い。          ・動画には字幕を付けられるものが多い。          ・関連する内容についてデジタルコンテンツの中から小学校家庭科や他教科の教科書のページに飛ぶことができ、教科のつながりを意識しやすい。          ・実習例はすべて動画があり確認しやすい。（左利き用の動画が用意されているところもある。）          ・デジタルコンテンツの中にはクイズがあり、導入や振り返りで活用できる。          ・授業内で取り扱いやすい関連動画がNHKforschoolや農林省、SDGsのサイトからピックアップされている。          ・シミュレーションコンテンツも多く、1日のに必要な食品群別摂取量の計算や幼児目線などを模擬体験ができる。          ・家庭科に関する職業のプロからのメッセージが動画でも用意されており、キャリア教育とも関連付けることができる。          ・高齢者とかかわり、幼児の生活習慣、悪質商法など動画で視覚的に捉えたいほうが理解しやすいものについてコンテンツが充実している。          ・災害対応に関するデジタルコンテンツも充実している。</p>	<p>・ユニバーサルデザインの考えにもとづいて編集。          ・簡潔な文章表記。          ・印刷が鮮やかに出ていない写真やイラストが見られる。          ・多様な生徒への対応として漢字は基本常用漢字を使用。          ・中学校で学習する漢字については見開きページごとの初出箇所にもふりがなをつけている。          ・押さえない語句は太ゴシック（青）で目立つように表記。          ・製作や実習の手順は縦に配置し、ポイントや失敗例を挙げて考えさせる構成。</p> <p><b>&lt;デジタルコンテンツについて&gt;</b>          ・必要ページのみデジタルコンテンツに関するQRコードが掲載されている。QRコードの隣に何についてのQRコードなのか記載されていてわかりやすく、扱いやすい。          ・デジタルコンテンツは、分野ごとに分かれていて選択ししやすい。          ・他教科との関連コンテンツはない。          ・ガイドランスなどで使える実習（調理・被服・保育訪問）の注意点コンテンツがある。          ・チャイルドラインや国民生活センターなど実生活内でそのまま使えるサイトの掲載がある。          ・消費者庁や警察庁、内閣府など国に関するサイトに多い。（厚生労働省のサイトは移行されているものが多く再度調べなおす必要がある。）          ・振り返りシートが各分野にデジタルデータベースでもついている。          ・敵立作成計算ソフトは食品群別摂取量の過不足など計算しやすくわかりやすい。          ・調理実習動画わかりやすい。          ・調理・被服実習動画は左利き用はない。          ・動画や写真など古いものがある。          ・データベースは動画よりもWebサイトの掲載が多い。          ・住分野での伝統的な住まいのパノラマは実際には行けないところを見ることができ、          ・A家族家庭生活の中での親からのメッセージはなかなか聞けない親の思いを聞ける。</p>	<p>・文字はユニバーサルデザインフォント          ・カラーユニバーサルの視点から誰もが見やすい色とデザインを使用          ・簡潔な文章表記。          ・押さえない語句は太ゴシックで目立つように表記          ・中学校で学習する漢字については見開きページごとの初出箇所にもふりがなをつけている。          ・見開きを活用した実物大写真や資料の配置等が工夫され、見やすい紙面構成          ・実習や製作の手順は、左から右への横の流れで統一（パターン化）          ・〈小学校での学び〉〈他教科〉との関連を表記。</p> <p><b>&lt;デジタルコンテンツについて&gt;</b>          ・必要ページのみデジタルコンテンツに関するQRコードが掲載されている。          ・デジタルコンテンツは、分野ごとに分かれていて選択ししやすい。デジタルコンテンツ内に記載ページが書かれていて選択しやすい。          ・他教科との関連コンテンツはない。          ・動画はNHKアーカイブスの動画もある。          ・調理、被服実習は左利き用の動画も用意されている。（ないところもある。）          ・幼稚園施設についての動画は実際に幼稚園施設が近くにない場合などはポイントを押さえ説明してくれており、わかりやすい。          ・動画資料もあるが、教科書掲載資料をデジタル資料として見られるものやWebサイトが多い。          ・A家族・家庭生活、C消費生活環境はロールプレイング動画もあり、事例について考えたり、ロールプレイングにつなげたり活用する幅がある。          ・調理実習の動画はわかりやすい。          ・データベースはあるが、敵立作成計算等についてのデジタルコンテンツがない。          ・家庭内事故のヒヤリハットについてゲーム感覚で探せるデジタルコンテンツがある。          ・学習のまとめ、自己評価チェックシートが各分野についている。          ・家庭科に関する職業の先輩からのエールが動画でも用意されており、キャリア教育とも関連付けることができる。</p>